



I-OWA マンスリー・セミナー講演より

波乱相場を「黄金シナリオ」に変える資産運用法(1)

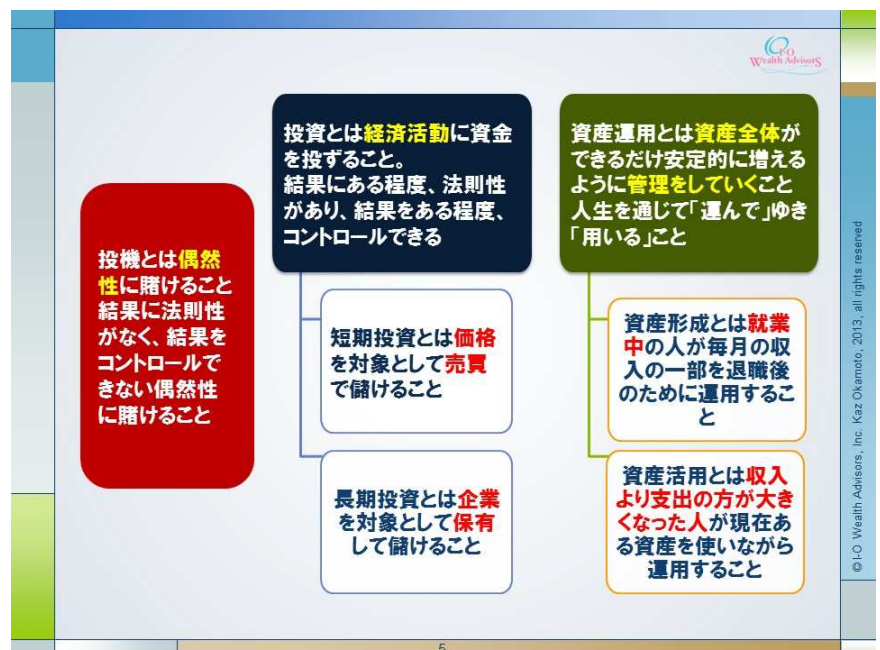
講演：岡本 和久

レポーター：赤堀 薫里

今回から四回に分けて私の近著、「波乱相場を『黄金のシナリオ』に変える資産運用法～かんたんすぎてすみません」をテキストに追加の解説も含めてお話をしていきたいと思ひます。

なぜ投資がこんなに難しくなってしまったのか？それは、みんな、できるだけ早く、できるだけたくさん儲けようとするからです。本来、投資とは、リスクをとった見返りとしてそこそこの利益を長い時間をかけて受け取るものである。できるだけたくさん、できるだけ早くを優先させて、できるだけ安全を後回しにしてしまう所に実は大きな問題があるのです。本当は少しずつ、ゆっくり儲けていけばとても単純で簡単なことです。

一般的に「トーシ」とひとくくりで言ってもいろいろな意味がある。問題はすべてが「トーシ」という言葉でくくられているところに問題があるのです。まず、「投資」と「投機」は大きく異なります。「投機」とは、偶然性にかけるもの。結果に法則性がなくコントロールする術もない。「投資」とは、経済活動に資金を投じる。経済活動といっても人間がやっていることであり、完全な法則性があるわけではないが、結果にある程度の法則性があり、結果をある程度コントロールできるのです。投資の中にも「短期投資」と「長期投資」は性格が異なります。「短期投資」は、あくまで価格を対象として売買で儲ける。「長期投資」は、企業を対象として、その企業を保有して儲ける。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

資産運用にも「資産形成」と「資産活用」がある。非常に多くの方が、投資と資産運用を混同しているけれど実は大きく異なります。まず「資産運用」とは、長期間に渡り、資産全体をどのように管理していけば増やすことができるのか、資産全体が自分の取れるリスク度合いに応じて安定的に増えていくことが目的です。英語ではアセット・マネジメント(資産管理)と言いますが、まさにお金を管理していくことが資産運用です。例えば、ある株式を購入して5年で10倍になったとします。長期投資としては大成功です。でも、10万円が100万円になったとしても、退職後の生活が安泰とはいえない。これは、長期投資としては成功だけど、資産運用にはなっていない。資産運用の中にも「資産形成」と「資産活用」がある。「資産形成」というのは、就業中の方が毎月の給料の中から積立をして資産を増やしていく。「資産活用」というのは、退職した方が、現在ある資産を賢く運用しながら滞空飛行時間を伸ばしていくこと。これらの違いをきちんと認識することはとても大切なことです。

投資のイメージが悪い理由は、投資とは「投機」か「短期投資」だとみんなが思っているからです。これは、「将来の自分を今の自分が支える」という発想の必要性が今までなかったためです。過去は、経済も成長し、人口も増え、社会保障制度もそれなりに充実していたし、年功序列制度、終身効用制度もあった。しかし、今はそうではないのに、大勢の人が世の中変わったけれどなにかかなると思っている。発想を変えて、将来の自分は今の自分が支えるという意識を持つ必要があります。

資産運用を始めるに際して、「株式会社・債券・株式」、「株式のパフォーマンス」、「投資信託の仕組み」は、最低限頭に入れておいてもらいたいものです。長期的視点で株式投資を考えると、株式に投資をするということは企業の株主資本を保有するということです。たくさんの企業の株主資本を持っていれば、全体としての株主資本の価値は長期的に増加していきます。長期的には全体としての配当金も増加していきます。物価上昇により発生する企業の利得は最終的には株主のものになります。株価は株主資本をいくらで買うかという値段です。株価は現在の価値の推定、将来の価値の予測に加え、投資家の心理により日々大きく変動します。

講演では、パン屋さんを起業したヨシツネ君と株主として出資したしずかちゃんを例にわかりやすく解説いただきました。また、株式のパフォーマンスについて、投資信託の仕組み、成功するための三つの知識である「時間を味方につける」、「リスクとリターンを知る」、「コントロールできることとできないことを知る」についての説明をいただきました。次回はテキストの第3章「人生を通じての資産運用の実際」についてお話いただきます。テキストに書かれていないことをより深く理解できる貴重な講演でした。